

第 2 期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実施状況および効果検証について

■第 2 期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画概要

○計画の目的

国は、人口減少、少子高齢化、東京圏一極集中といった課題に対し、各地域がそれぞれの特徴を生かした自律的で持続的な社会を創生できるよう、2014（平成 26）年から「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定め、推進してきました。

本市でも、国や県が策定する長期ビジョン、総合戦略などと連携して、第六次土岐市総合計画に掲げるまちの将来像「人と自然と土が織りなす交流文化都市」の実現を目指すとともに、人口減少対策と地域活性化につながる取組を継続し、住みよい環境を確保して将来にわたって活力ある社会の維持を図るため、第 1 期の計画の終了に伴い、第 2 期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

○計画の位置づけ

第六次土岐市総合計画や国、県の総合戦略、市内の個別の関連計画との整合をとりながら、まちの将来像「人と自然と土が織りなす交流文化都市」をめざします。

○計画期間

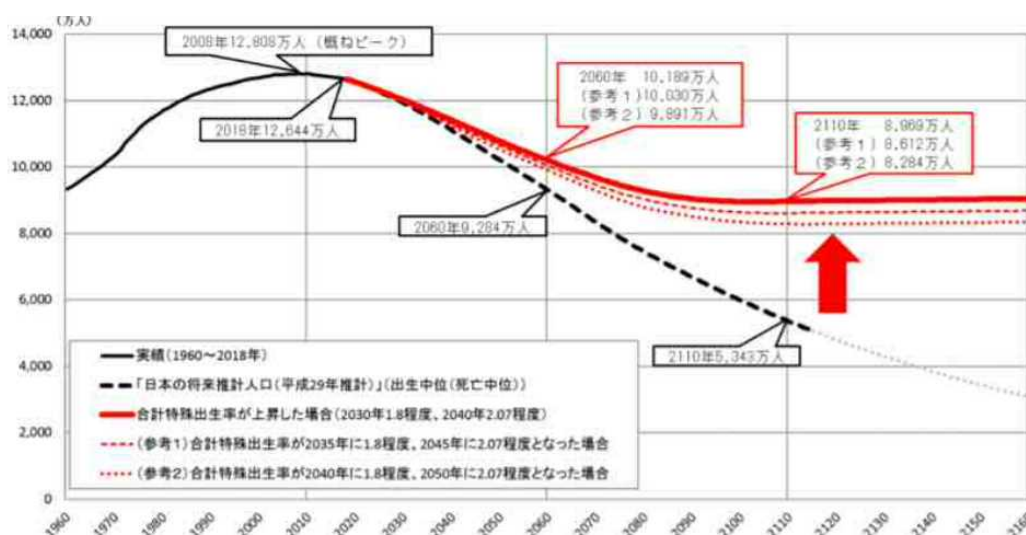
2020（令和 2）年度から 2024（令和 6）年度までの 5 年間で。

○長期的な将来人口の見通し

将来展望

**土岐市の人口は、2040 年（令和 22 年）には 51,094 人、
2060 年（令和 42 年）には 46,881 人**

合計特殊出生率（2030 年までに 1.80、2040 年までに 2.07 まで改善）と移動率（過去 15 年間の平均値まで改善）の改善に向けた取組を計画的に進めることにより、人口ビジョンに定めた将来展望を引続き目指すものとします。



○施策の体系図



「まち・ひと・しごと創生」が目指す、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立と、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すため、以下の4つの基本目標と2つの横断目標を設定し、その目標達成のための10の施策を実施



第2期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020（令和2）～2024（令和6）年度）

4つの基本目標	基本目標を達成するための施策
基本目標1 土岐市の次代を支える「ひと」を育む	施策1 若い世代の結婚や、出産を応援する 施策2 子育て支援を充実する 施策3 地域で子どもを守り・育む環境をつくる 施策4 未来社会を切り拓いていける人材を育てる
基本目標2 土岐市の特長や強みを活かして「しごと」をつくる	施策5 市内における新たな産業や雇用・就業機会を創出する 施策6 陶磁器産業をはじめとする既存産業を活性化する
基本目標3 土岐市の交流人口を活かして「にぎわい」をつくるとともに関係人口を増やす	施策7 地域資源を活かして交流人口や関係人口を拡大する
基本目標4 土岐市に愛着を持ち、いきがいを持って、安心して住み続けられる「まち」をつくる	施策8 住み続けたいまちとしての魅力を高める 施策9 若い世代の移住・定住を促進する 施策10 健康寿命を延ばし元気に活躍できるまちをつくる

第2期で新たに追加されたポイント

横断目標1

誰もが活躍できる地域社会をつくる

横断目標2

新しい時代の流れを地域の力にする

2つの横断目標

■実施状況および効果検証について

○基本目標ごとの基本的方向、数値目標と実績

基本目標 1 土岐市の次代を支える「ひと」を育む

基本的方向

- 本市における自然減少は、若年女性人口の減少、未婚化・晩婚化や晩産化の進行などにより、出生数の減少傾向が続いていることが原因と考えられます。
- そこで、未婚者への出会いの場の提供や、子どもとのふれあい体験などを通じて婚姻や出産への希望を高め、未婚化・晩婚化の抑制を図ります。
- また、子育て世帯の経済的負担の軽減や保育・託児環境の充実、教育力を高める取組、確かな学力の育成、特色ある小中学校づくりなど、出産から教育までのライフステージに応じた切れ目のない子育て支援を充実し、子育てを地域全体で支えあうことができるまちをつくることにより、年間出生数の増加を図ります。

基本指標と実績

基本指標を合計特殊出生率とし、数値目標は 1.61 以上としました。実績値をみると、減少傾向にあり、令和 5 年時点では 0.99 と 1 を下回る結果となっています。

基本指標	基準値 (2018 年)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
合計特殊出生率	1.41	1.61 以上	1.3	1.11	1.19	0.99	

※達成 :  改善傾向 :  悪化 : 

施策 1 若い世代の結婚や、出産を応援する



KPI として設定した指標をみると、婚姻届受理件数は年々減少傾向にあり、令和 2 年度には新型コロナの影響もあり 200 件を下回っており、その後やや回復するも数値目標を大きく下回る結果となっています。

安心して出産できる人の割合は、令和 2、3 年には新型コロナの影響で大きく下がるものの、その後回復し、令和 5 年時点で 91.6% と基準値を超える結果となっています。

4 か月児健診の受診率は、数値目標の 100% を達成しています。

KPI	基準値 (2018 年度)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
婚姻届受理件数	238 件	238 件以上	164 件	186 件	180 件	139 件	
安心して 出産できる人の割合	88%	95% 以上	82.3%	81.8%	87.6%	91.6%	
4 か月児健診の 受診率	98.6%	100%	95.7%	100.7%	100.4%	101.8%	

※達成 :  改善傾向 :  悪化 : 

施策2 子育て支援を充実する



KPI として設定した指標をみると、子育て支援に関する満足度は令和3年度までは増加していましたが、令和4年度に大きく減少し、令和5年度にやや持ち直したものの数値目標を下回る結果となっています。

チャイルドシート等購入助成利用件数は、はほぼ横ばいとなっています。

待機児童数は、基準年から継続して0人を保持しています。

KPI	基準値 (2018年度)	数値目標 (2024年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
子育て支援の充実に関する満足度	25.0%	30.0%以上	28.2%	28.9%	22.4%	25.1%	
チャイルドシート等購入助成利用件数	181件	毎年180件以上	139件	120件	142件	137件	
待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

※達成： 改善傾向： 悪化：

施策3 地域で子どもを守り・育む環境をつくる



KPI として設定した指標をみると、放課後教室の登録割合は新型コロナの影響もあり、令和3年度に約10ポイント下がり、その後、回復するも基準値に届いていません。

土岐ふるさと塾の参加人数は、新規事業として開始し、数値目標を達成していませんが、一定の成果が見られます。

KPI	基準値 (2018年度)	数値目標 (2024年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
子育て支援の充実に関する満足度 (再掲)	25.0%	30.0%以上	28.2%	28.9%	22.4%	25.1%	
放課後教室の登録割合(小1~3)	56.5%	66.5%以上	55.6%	45.2%	46.7%	49.2%	
土岐ふるさと塾の参加人数	—	120人以上	73人	91人	102人	73人	

※達成： 改善傾向： 悪化：

施策４ 未来社会を切り拓いていける人材を育てる



KPI として設定した指標をみると、児童生徒の学力における全国平均比較で同等以上の項目数は年度間でばらつきのある結果となっていますが、目標値を下回る結果となっています。基準値の 63% に対し、令和 5 年度には、50% まで減少しています。特に令和 4 年度に 7% と大きく下がっており、学力向上が課題となっています。

学校に行くのが楽しいと思える児童生徒数の割合は、令和 5 年度で 82.9% と増加傾向で、目標の 83.4% まであと少しとなっています。

読書を全くしない児童の割合も年度間でばらつきのある結果となっていますが、基準値を上回る結果となっています。

KPI	基準値 (2019 年度)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
児童生徒の学力における全国平均比較で同等以上の項目数	12/19 項目 (63%)	100%	－	59%	7%	50%	
学校に行くのが楽しいと思える児童生徒の割合	81.2%	83.4% 以上	－	81.8%	82.7%	82.9%	
読書を全くしない児童の割合	21.6%	15.0% 以下	26.6%	22.5%	28.2%	22.9%	

※達成 : 改善傾向 : 悪化 :

基本目標 2 土岐市の特徴や強みを活かして「しごと」をつくる

基本的方向

- 本市の転出超過は、職業上・結婚等の理由とした転出が主な原因と考えられます。
- そこで、情報発信力の強化や、ふるさと納税制度の活用を図り、美濃焼・土岐市の知名度・ブランド力を向上させることにより、地場産業である陶磁器産業をはじめとする既存産業を活性化するとともに、本市の特長や強みを活かし、新たな産業や雇用・就業機会を創出することにより、若い世代が職業上の理由で市内から転出することを抑制します。
- また、ひきこもり、生活困窮者といった社会的孤立者に対して、社会との関わり合いを持つきっかけをつくり、社会進出を促します。

基本指標と実績

基本指標を市内事業所の従業者数とし、数値目標は26,500人以上としました。実績値をみると、増加傾向にあり、令和3年度時点では26,986人と目標を上回る結果となっています。

基本指標	基準値 (2016 年)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
市内事業所の 従業者数	25,494 人	26,500 人 以上	25,494 人	26,986 人	→	→	

※達成 :  改善傾向 :  悪化 : 

施策 5 市内における新たな産業や雇用・就業機会を創出する



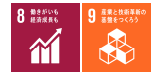
KPI として設定した指標をみると、新規立地企業数は、令和5年度に2件あり、累積25件となっています。目標の26件以上まであと1件となっています。

新規創業支援補助件数は、5件以内で推移しています。令和2年度は新型コロナの影響もあり2件でしたが、以降は増加傾向となっています。目数値目標を下回る結果となっています。

KPI	基準値 (2018 年度)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
新規立地企業数	累積 23 件	累積 26 件 以上	累積 23 件	累積 23 件	累計 23 件	累計 25 件	
新規創業支援 補助件数	10 件	毎年 12 件 以上	2 件	4 件	3 件	5 件	

※達成 :  改善傾向 :  悪化 : 

施策6 陶磁器産業を始めとする既存産業を活性化させる



KPI として設定した指標をみると、窯業・土石製品製造出荷額は、令和4年度には7,256 千万円となっており、数値目標を大きく上回っています。

小売商業年間商品販売額は、令和3年に6,856 千万円となっており、基準値よりも増加しているものの、数値目標の7,230 千万円は達成していません。

KPI	基準値	数値目標 (R6)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
窯業・土石製品 製造出荷額	5,783 千万円 (2017 年度)	6,200 千万円 以上	5,769 千万円	6,563 千万円	7,256 千万円	→	
小売商業年間商品販 売額	6,677 千万円 (2016 年度)	7,230 千万円 以上	-	6,856 千万円	→	→	

※達成 : 改善傾向 : 悪化 :

基本目標 3 土岐市の交流人口を活かして「にぎわい」をつくるとともに関係人口を増やす

基本的方向

- 広域交通基盤の整備を背景に、土岐市を訪れる年間の交流人口は900万人を超えており、交流人口は着実に増加を遂げています。
- 土岐プレミアムアウトレットやテラスゲート土岐、市内2ヶ所の道の駅、美濃焼関連の産業文化資源をはじめ、土岐市の個性や魅力をさらに磨き、情報発信を強化するとともに市民や民間事業者、周辺自治体などと協働することにより、これまで以上に多くの人々が土岐市を訪れ、土岐市を楽しむことができ、土岐市内の隅々に至るまで多様な交流が生まれるにぎわいのあるまちをつくります。
- また、交流人口に加えて、ふるさと納税や企業版ふるさと納税の活用など、市内外の多様な主体との新たな関係を構築し、土岐市の地域や地域の人々と多様に関わる関係人口の創出、拡大を図ります。

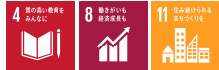
基本指標と実績

基本指標を交流人口（観光入込客数）とし、数値目標を10,000千人以上としました。実績値をみると、新型コロナの影響で減少して以降あまり回復しておらず、令和4年時点では6,718千人と数値目標を大きく下回る結果となっています。

基本指標	基準値 (2018年)	数値目標 (2024年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
交流人口 (観光入込客数)	9,289 千人	10,000 千人以上	6,615 千人	6,498 千人	6,718 千人	-	

※達成： 改善傾向： 悪化：

施策7 地域資源を活かして交流人口や関係人口を拡大する



KPIとして設定した指標をみると、市内イベント来場者数は、617千人以上を目標としましたが、実績値は新型コロナの影響を大きく受け、令和3年には9千人と激減、その後回復するも令和5年時点で372千人と基準値の7割程度にしか戻っていません。ふるさと応援寄付金受入件数は、数値目標の1,500件以上に対し、令和2年には目標を達成し、令和5年には26,899件と数値目標の17倍と大きく上回っています。

KPI	基準値 (2018年度)	数値目標 (2024年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
市内イベント 来場者数	510千人	617千人 以上	14千人	9千人	183千人	372千人	
ふるさと応援 寄付金受入件数	7件	1,500件 以上	1,519 件	11,153 件	25,247 件	26,899 件	

※達成： 改善傾向： 悪化：

基本目標 4 土岐市に愛着を持ち、いきがいを持って、安心して住み続けられる「まち」をつくる

基本的方向

- 本市の人口動態は、10 年以上転出超過の状況が続く中で、近年は、特に県外への転出者数が多く、県内での移動では転出入が拮抗し転入超過となる年もあります。
- 10 代や 20 代の若年人口が進学や就職等を理由に県内外へ転出する傾向が大きく、一方で、若年ファミリーなどの住宅事情による転入が多いことが、本市の人口動態の特徴となっています。こうした人口動態を踏まえ、土岐市に住みたい・住み続けたいと思える定住環境としての魅力を高めるとともに、住民の自立や安心できる暮らしを支援したり、生まれ育った郷土への誇りや愛着を醸成することにより、市外への人口転出を抑制するとともに、引き続き、若い世代の市内への移住定住の促進を図ります。
- また、子どもから高齢者まですべての世代が健やかな生活習慣を形成し、自ら運動や社会活動など多様ないきがいをつくることで健康寿命を延ばし、より長く元気に活躍できるまちをつくります。

基本指標と実績

基本指標を「転入者数－転出者数」「住みやすさの評価」「市民の定住意向」とし、数値目標をそれぞれ「転入超過」「70.0%以上」「65.0%以上」としました。「転入者数－転出者数」の、実績値をみると、基準値を大きく下回り、令和 5 年時点で 270 人の転出超過となっています。

住みやすさの評価の実績値をみると、年々上昇傾向にあり、令和 5 年時点で 68%と数値目標をやや下回るも順調に上昇しています。

市民の定住意向の実績値をみると、ほぼ横ばいで推移しており、令和 5 年時点で 58.6%と基準値をやや下回る結果となっています。

基本指標	基準値 (2018 年)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
転入者数－転出者数	△56 人	転入超過	△178 人	△179 人	△102 人	△270 人	
住みやすさの評価	62.4%	70.0%以上	69.1%	67.3%	69.6%	68%	
市民の定住意向	59.2%	65.0%以上	59%	62.2%	58.3%	58.6%	

※達成 :  改善傾向 :  悪化 : 

施策 8 住み続けたいまちとしての魅力を高める



KPI として設定した指標をみると、市政に関する市民参加の機会の充実に関する市民満足度は、20%以上を目標としましたが、実績値は基準値から増減を繰り返しつつ微増となっており、目標を下回っています。

地域防災リーダーの数は、目標を 180 人以上に対し、実績値は令和 4 年で 180 人を超え、令和 5 年で 209 人と数値目標を大きく上回る結果となっています。

自治会加入率をみると、数値目標を 69%以上としましたが、実績値は基準値から微減傾向となっており、令和 5 年は 67.4%と目標を下回っています。

文化・芸術の振興に関する市民満足度は、数値目標を 30%以上としましたが、実績値は横ばいから減少傾向となっており、令和 5 年は 16.5%と数値目標を大きく下回っています。

KPI	基準値 (2018 年度)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
市政に関する市民参加の機会の充実に 関する市民満足度	10.5%	20.0%以上	17.9%	16.4%	14.1%	13.9%	
地域防災 リーダーの数	116 人	180 人以上	133 人	147 人	181 人	209 人	
自治会加入率	69.0%	69.0%以上	68.35%	67.64%	68.32%	67.43%	
文化・芸術の振興 に関する市民満足 度	22.6% (2019 年)	30.0%以上	18.9%	21.5%	15.1%	16.5%	

※達成 : 改善傾向 : 悪化 :

施策 9 若い世代の移住・定住を促進する



KPI として設定した指標をみると、転入者数（20～39 歳）は、949 人以上を数値目標としましたが、実績値は、令和 4 年に 1,002 人と数値目標を超えたものの、令和 5 年には 846 人と目標を下回る結果となっています。

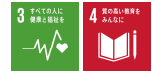
5 年以上在住の人口（25～44 歳）をみると、数値目標を 8,450 人以上としましたが、実績値は微減で推移しており、令和 5 年には 8,240 人と数値目標を下回る結果となっています。

犯罪認知件数（1,000 人当たり）をみると、数値目標を 3.3 件以下としましたが、令和 4 年に一時、数値目標を達成するも、令和 5 年には 5.4 件と基準値よりも悪化しています。

KPI	基準値 (2018 年度)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
転入者数 (20～39 歳)	949 人	949 人以上	850 人	872 人	1,002 人	846 人	
5 年以上在住の人口 (25～44 歳)	8,450 人	8,450 人 以上	8,271 人	8,228 人	8,245 人	8,240 人	
犯罪認知件数 (1,000 人当たり)	4.9 件	3.3 件以下	4.2 件	3.7 件	3.2 件	5.4 件	

※達成 : 改善傾向 : 悪化 :

施策 10 健康寿命を延ばし元気に活躍できるまちをつくる



KPI をみると、65 歳以上の要介護等認定率は、数値目標を 15%以下としましたが、実績値はほぼ横ばいで推移しており、令和 5 年時点で 16.8%と基準値よりもやや悪化しています。

スポーツ振興に関する市民満足度をみると、数値目標を 25%以上としていましたが、実績値は上昇傾向ではあるものの、令和 5 年時点で 23.3%と数値目標をやや下回る結果となっています。

生涯学習の充実に関する市民満足度をみると、目標値は 30%以上としましたが、実績値は上昇傾向にあり、令和 5 年時点で 28.8%と数値目標に近い結果となっています。

KPI	基準値 (2018 年度)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
65 歳以上の 要介護等認定率	16.3%	15.0%以下	16.8%	17.0%	16.8%	16.8%	
スポーツ振興に 関する市民満足度	17.6%	25.0%以上	16.1%	17.9%	11.8%	23.3%	
生涯学習の充実に 関する市民満足度	21.7%	30.0%以上	19.8%	23.5%	18.8%	28.8%	

※達成 : 改善傾向 : 悪化 :

○横断的な目標の基本的方向と数値目標

横断目標 1 誰もが活躍できる地域社会をつくる

基本的方向

- 地方創生に関する取組を継続・発展し、これまで以上に活気あふれる土岐市を築いていくためには、土岐市で暮らし、学び、働く人など、土岐市に関わる一人ひとりが地域の担い手として自ら積極的に参画し、活躍できる環境づくりが求められます。
- 若者や高齢者、女性、障がい者、外国人など、誰もが地域社会において居場所と役割を持ち、それぞれの役割や能力などに応じて生涯にわたって活躍できる地域づくりを推進します。

基本指標

基本指標を「女性の就業率」「高齢者（65-74 歳）の就業率」とし、数値目標をそれぞれ「66.4%以上」「50.0%以上」としました。

国勢調査を基に数値を算出しているため、令和 2 年の国勢調査が直近の数値となりますが、いずれも数値目標を下回る結果となっています。

基本指標	基準値 (2015 年)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
女性の就業率	50.8%	66.4% 以上	50.7%	→	→	→	
高齢者（65-74 歳） の就業率	39.9%	50.0% 以上	44.4%	→	→	→	

※達成： 改善傾向： 悪化：

横断目標 2 新しい時代の流れを地域の力にする

基本的方向

- 情報通信技術が急速な発展を遂げ、2020 年度末までには 5 G サービスの開始も予定されるなど、未来技術を活用して住民の生活の利便性と満足度を高めることにつながる Society5.0 の実現に向けた地域社会づくりが求められています。
- また、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指して、持続可能な開発目標（SDG s）の考え方を取り入れたまちづくりが求められています。
- こうした新しい時代の流れを的確に捉えて、効果的に地域の力として取り入れていくことができるよう、各分野において I C T の有効活用を進めるとともに、A I や R P A 等の活用方法、SDG s の考え方を取り入れたまちづくりの進め方について研究を進めるなど、未来技術の活用や SDG s を原動力とした各種取組を推進します。

基本指標と実績

教育用コンピュータ 1 台あたり児童生徒数をみると、数値目標を 3.0 人以下に対し、令和 2 年に 1 人 1 台と目標を達成しています。

未来技術を活用し、地域の課題を解決した件数をみると、目標は累計で 1 件以上でしたが、実績値は 1 件と数値目標を達成しています。

G I G A スクール構想もあり、子どもの I C T 環境は大きく改善され、未来技術を活用した地域課題解決も実績がありますが、今後も A I などを活用した D X について検討を進めていく必要があります。

基本指標	基準値 (2019 年)	数値目標 (2024 年度)	実績値				評価
			2020	2021	2022	2023	
教育用コンピュータ 1 台あたり児童生徒数	5.9 人	3.0 人以下	1	0.9	1	1	
未来技術を活用し、地域の課題を解決した件数	0 件	1 件(累計)以上	0	0	0	1	

※達成： 改善傾向： 悪化：